

経営比較分析表（平成28年度決算）

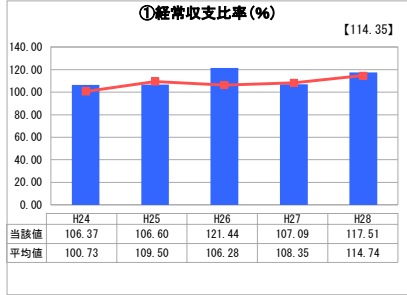
岡山県 吉備中央町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.25	32.41	4,105	

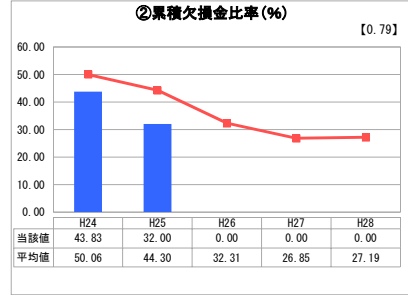
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,133	268.78	45.14
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,866	23.30	165.92

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

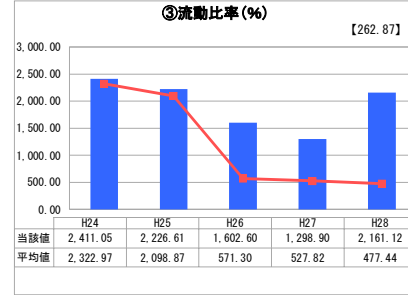
1. 経営の健全性・効率性



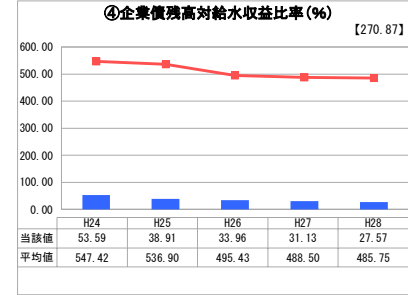
「経常損益」



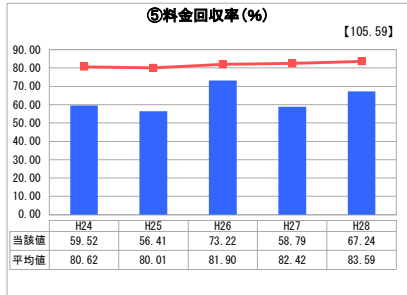
「累積欠損」



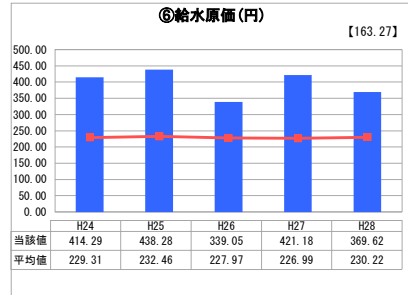
「支払能力」



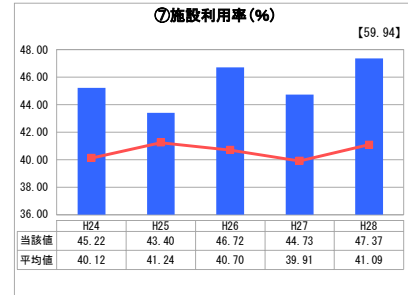
「債務残高」



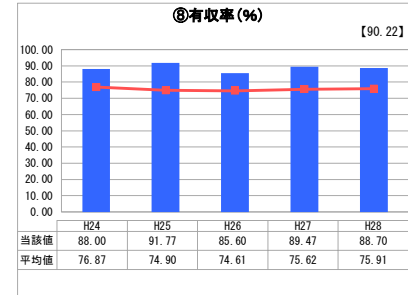
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

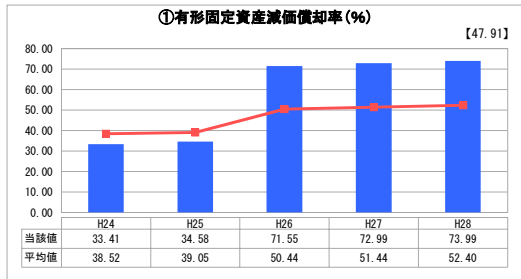


「施設の効率性」

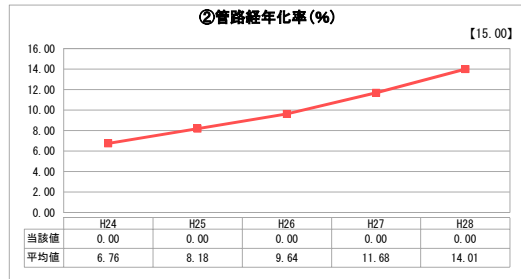


「供給した配水量の効率性」

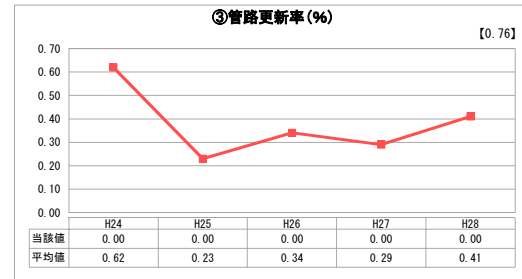
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率は100%以上で推移しており、概ね健全な経営状態にあると言える。
- また累積欠損比率は平成26年度公営企業会計基準の導入により0%である。
- 流動比率は公営企業会計基準を導入により一時的に下降したが、今後は現状維持で推移するものと推測される。
- 企業債残高対給水収益比率は問題ないレベルであるが、緊急大規模修繕等の必要が出た場合を想定すると余談は許せない。
- 料金回収率は類似団体平均値を下回っているため、適正な料金設定の模索が必要と思われる。
- 給水原価は当自治体は高原地帯にあり、十分な水源確保が難しく、下流域の岡山県広域水道企業団より浄水をポンプアップにより受水している為、原価が高い傾向にある。
- 施設利用率は類似団体平均値より上回っているが、更なる向上に努めたい。
- 有収率についても、数値的には悪くなく昨年より若干下がったが、漏水調査や、管路更新等により更なる向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率は26年度より公営企業会計基準導入より比率が70%を超えている。このことは保有資産の法定耐用年数が迫っていることを表し、それぞれ優先順位を洗い出し、改修計画を早急に立て実施することが求められている。

全体総括

表面上の経営自体は概ね健全で、ある程度の現金ストックもあるが、地形的に受水費が高く、今後施設及び管路の法定耐用年数が迫ってきていることを考慮すると、必ずしも経営体力が高いとは言いがたい、その脆弱性が見え隠れしている。

よって、料金改定・漏水調査による有収率の改善・施設管路の計画改修等、多角的に経営基盤の安定に努力して行く必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県 吉備中央町

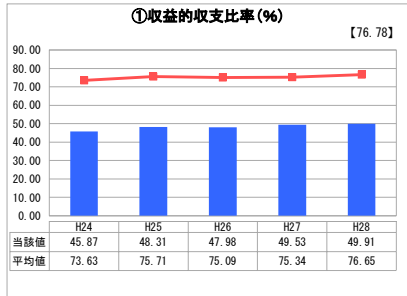
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	63.64	4,222	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,133	268.78	45.14
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,592	125.91	60.30

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



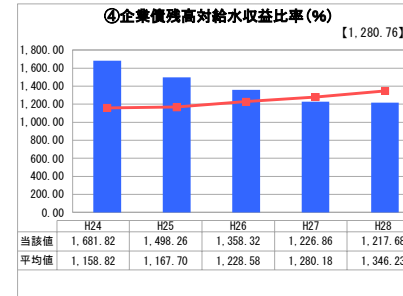
「単年度の収支」



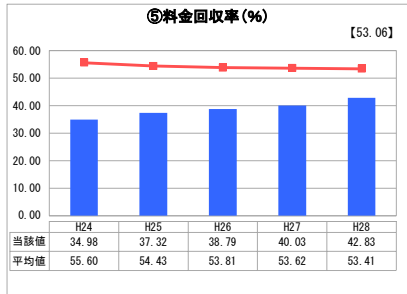
「累積欠損」



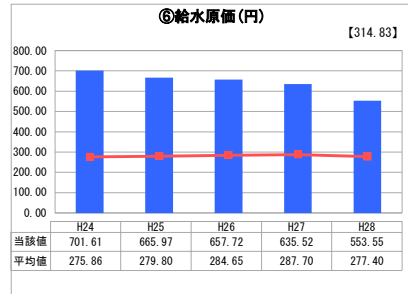
「支払能力」



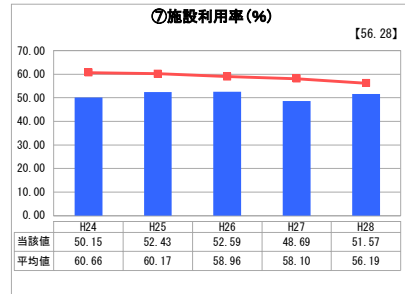
「債務残高」



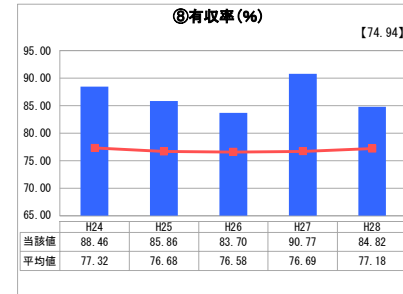
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

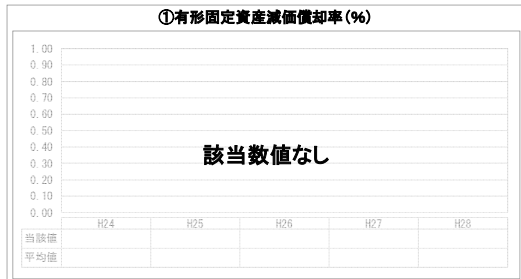


「施設の効率性」

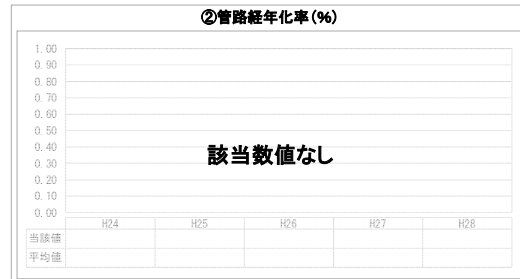


「供給した配水量の効率性」

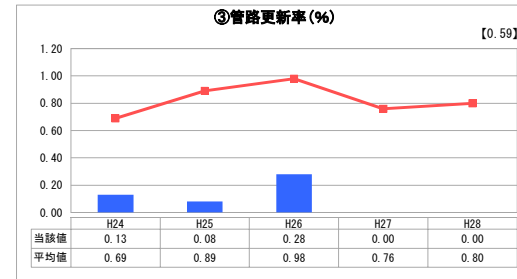
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

中山間地域のため水資源が乏しいことによる施設建設費が多額になり地方債償還金の負担が大きい。水源や地理的条件から浄水・給配水のコストが高く、かつ給水原価が高い。現在、料金水準は他市町村と比べても最高水準となっておりこれ以上の料金改定による使用料金の値上げは、人口減少をさらに加速させ、給水収益の増収並びに給水量の増加につながらない恐れがあるため慎重な判断を要すると思われる。しかしながら経営の健全性及び効率性の観点から考慮すると、政治的判断にはなるが、人口増加や工場誘致等の施策による給水量を増加させ収入の増加を図る必要がある。また以前から経費の節減は行っているが、さらに努力や工夫の積み重ねが必要である。

2. 老朽化の状況について

吉備中央町の簡易水道施設は幅広く分布しており、また、管路の経年化率が高い。漏水の多発する地域もあり、老朽管の更新を行っている。しかしながら、簡水エリア一斉に管路更新を行うことは困難であるため、法定耐用年数の経過している所や迫っている所に優先順位をつけ、改修計画を早急に立て実施することが求められる。また管路更新が早急にできない所については修繕での対応をしながら投資を抑制していく必要がある。

全体総括

経営の健全性を言えば使用料金により給水原価を賄えれば良いが、料金回収率をみると40%前後と低い状態である。しかしながら前述しているとおり、これ以上の使用料金の値上げは決して良い効果をもたらすことは無いと思われる。そのため今後も引き続き節減するなどの努力を要する。また、平成29年度から上水道事業と統合し経営の健全性、効率性等を図っていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。